

第11回 医学生・若手医師のための緩和ケアセミナー-on WEB
緩和医療の専門的な研修プログラム紹介 一覧表

施設ID	施設名	都道府県
1	竹田総合病院	福島県
2	つくば緩和ケアグループ (筑波大学附属病院緩和支援治療科+筑波メディカルセンター病院緩和医療科)	茨城県
3	国立がん研究センター東病院 緩和医療科	千葉県
4	国立がん研究センター中央病院 緩和医療科	東京都
5	聖隷三方原病院、ホスピス科・緩和支援治療科	静岡県
6	静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科	静岡県
7	名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター	愛知県
8	ピースホームケアクリニック	滋賀県
9	京都府立医科大学 疼痛・緩和医療学教室	京都府
10	三菱京都病院腫瘍内科緩和ケア内科	京都府
11	飯塚病院連携医療・緩和ケア科	福岡県
12	JCHO九州病院 緩和ケア科	福岡県



病床数:837床
緩和ケア病棟:14床
診療科:30科

所在地:福島県会津若松市
地域がん診療連携拠点病院
臨床研修指定病院

病棟
200名/年

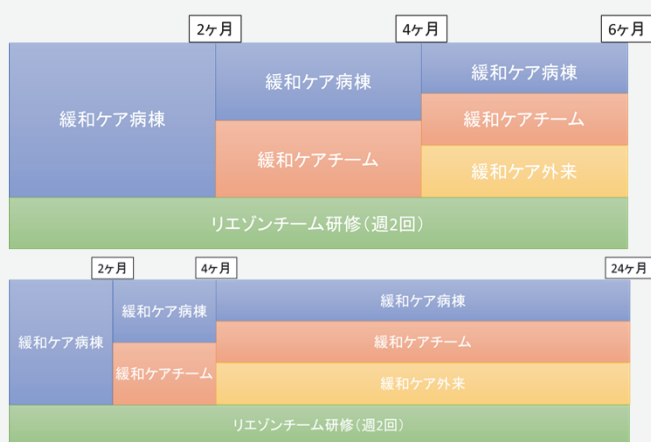
チーム
250名/年

外来
100名/年

他科との連携
・リエゾンチーム回診
・他科ローテート
・救急外来診療

東北大学との連携
・東北大学病院での短期研修
・大学院入学(医学博士)
・論文/書籍執筆

研修スケジュール

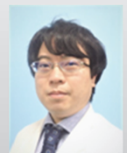


研修指導責任者からのメッセージ

当院での研修の特徴は以下の3つです

1. 自由度の高い研修
2. 他科も含めて指導医との距離が近い
3. 臨床研究も学べる

緩和ケアはすべての医療の根幹となるものです。
短期間の研修でも多くのことが学べることを保証します。



緩和医療科HP: http://www.takeda.or.jp/c_aid/c_care3.html

募集要項: <https://sites.google.com/view/takedadrrecruit/kanwa?authuser=0>

連絡先: hiratsuka.med.t@gmail.com (研修指導責任者 平塚裕介)

つくば緩和ケアグループ 専門的緩和ケア研修プログラム



つくばの緩和は強力な **“二本立て”**

茨城の「先進医療」「研究・教育」の拠点として
医療の発展に貢献する



筑波大学附属病院
University of Tsukuba Hospital

地域がん診療連携拠点病院（高度型）
がんゲノム医療拠点病院、陽子線治療施設 等
病床数：800床



2022年 **緩和支援治療科** 新設 !!

緩和ケアチーム：指導医4名 うち専門医3名

- 緩和ケアチーム・外来
コンサルテーション：651件/年
緩和ケア外来新規：262件/年
非がん 53件/年

⇒ 病院HPは[こちら](#) 緩和支援治療科HPは[こちら](#)
臨床研修センターHPは[こちら](#)



茨城県南・県西地域の

「救急医療」と「がん医療」を担う

公益財団法人 筑波メディカルセンター



筑波メディカルセンター病院
Tsukuba Medical Center Hospital



地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院 等
病床数：453床 訪問看護ステーション3か所

緩和医療科：指導医3名 うち専門医2名

- 緩和ケア病棟 病床数：20床 + 一般病床3床
平均在棟日数：19.4日 在宅復帰率：46.6%
入院患者数：318名/年

○ 緩和ケアチーム
コンサルテーション：271件/年 非がん：27件/年
⇒ 病院HPは[こちら](#) 緩和ケアセンターHPは[こちら](#)



筑波メディカルセンター病院
緩和医療科[facebookページ](#)

さらなる **“進化”** を続けます！

充実した環境で専門的な緩和ケアの研修ができます

研修プログラム：筑波大学附属病院 内科専門研修 緩和ケアコース

対象：卒後3年目以上 研修期間：5年

→ 緩和ケアコース紹介HPは [こちら](#)

取得可能資格：3年目修了⇒内科専門医 5年目修了⇒緩和医療専門医

- ◆ 内科専門研修で内科の診療力を身に着けながら、専門的な緩和ケアの研修を行い、内科をベースとした緩和医療専門医となることを目指します。
 - ◆ 精神腫瘍科の研修、博士号の取得なども、希望に合わせて相談できます。
- ※ 卒後5年目以上（他施設でベースの診療科の研修終了後）の短期研修を希望の方は要相談



実際の研修生からのメッセージ



和田 穂子先生
緩和ケア研修1年目

研修内容は比較的自由度が高く、個人の希望に応じて行うことができます。私は、緩和医療を行う上で、各専門科で化学療法や非がん疾患の診療を幅広く経験したいと思い、初期研修のスーパーローテートのような形で3～6か月ごとに専門内科研修だけでなく救急・集中治療、総合診療科、専門緩和研修を組み合わせた研修をしています。昔から医学教育に力を入れている茨城の地での研修は、毎日勉強することばかりで忙しくも充実しており、日々成長を実感しています。ぜひ一緒に研修できると嬉しいです。お待ちしております！

<和田先生の研修プログラム（予定）>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	大学病院：呼吸器内科、救急・ICU						市中病院：総合診療科					
2年目	TMC：緩和ケア病棟			市中病院：腎臓内科			市中病院：循環器内科、消化器内科					
3年目	大学や連携施設：内科研修（予定）											
4年目	大学病院：緩和ケアチーム（予定）											
5年目	PCUや在宅などで専門的緩和ケア研修（予定）											

研修修了者が全国の緩和ケアの現場で大活躍中！

《研修実績》

専門医プログラム修了者：9名

短期研修修了者：9名

他施設・他科：延べ41名

《資格取得者》

● 専門医 14名 ☆ 全国最多 ☆

● 認定医 7名

見学・オンライン相談 随時受付中！！



< 連絡先 >

筑波大学 医学医療系 緩和医療学

秘書 ファネルカー 怜子

kanwa@md.tsukuba.ac.jp





国立がん研究センター東病院 緩和医療科



国立がん研究センター東病院緩和医療科での研修の特徴

★ 緩和医療科の幅広い活動

緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、外来において、診療科の垣根を越えたシームレスな専門性の高い緩和医療を提供しています

日本でもトップレベルの診療実績を誇り、多くの専門的緩和ケアの臨床経験を積むことが可能です

2022 年度診療実績	
緩和ケア病棟入院	437 名
支持療法チーム新患	554 名
緩和ケア外来新患	372 名

★ 在宅医療機関との連携

非がんも含めた在宅医療の長期研修が可能です

★ 精神腫瘍科との連携

緩和医療での必須スキルである精神心理的ケアが日常の診療でしっかり学べます

★ 幅広いローテーション先

標準治療から陽子線治療や薬剤の開発などの先端治療まで、がん医療を幅広く学べます

★ 緩和医療専門医資格の取得

緩和医療専門医 2 名の指導を受けることができます
(当院出身者 7 名が取得済みです)



緩和医療科の活動や研修に関する詳細

緩和医療科ホームページ

https://www.ncc.go.jp/ncw/clinical/palliative_care/index.html



緩和医療科 Twitter

<https://twitter.com/NCC-EPalliative/>



緩和医療科・精神腫瘍科 Facebook ページ

<https://www.facebook.com/ncceastpallpsychol/>



研究に関する研修

★ 研究への取り組み

関心のある研究や機器/システム開発に取り組んでいただき、国内外の学会での発表や論文作成が可能です

★ 多施設緩和ケア抄読会

Web 会議システムにより、多施設で緩和ケア領域の論文を網羅しています（毎週開催）

★ 横断的なカンファレンスや講義

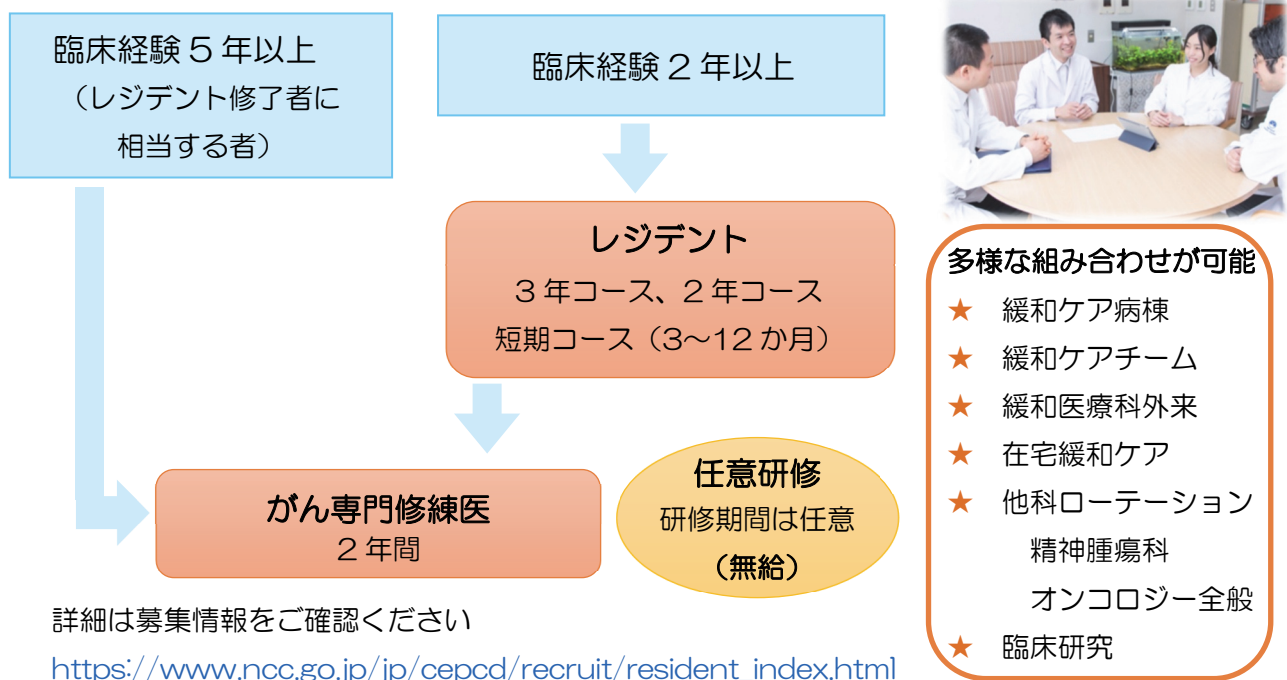
診療科や研究部門の枠を越えた横断的なカンファレンスや臨床研究等に関する講義を受講できます

★ 医学博士号の取得

連携大学院（順天堂大学等）があり、研修しながら学位を取得することが可能です



研修プログラム



研修や見学に関するお問い合わせは

国立がん研究センター東病院緩和医療科 久保 絵美

メールアドレス: kkosugi@sast.ncc.go.jp

見学は随時歓迎！！

お気軽にお問い合わせください

あなたが緩和ケアを学ぶ10の理由 

1 年間2,500例を超える症例数！！

当院の緩和ケアチーム介入件数は年間2,538件(2022年度)で、全国平均(189件 2020年度緩和ケアチーム登録)の13倍以上です。対象症例は、肉腫、悪性黒色腫など希少がん、造血幹細胞移植、治験、小児、AYA世代や外国人と多岐にわたり、症状緩和だけでなく、意思決定支援や療養環境調整など様々な経験を通じてあなたを鍛えます。

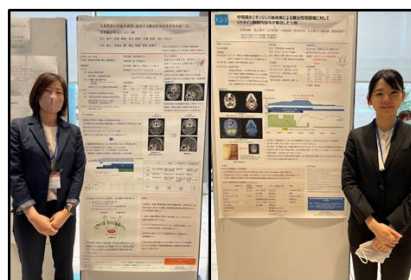


2 4チーム体制！指導スタッフが多い

当院の緩和医療科研修はコンサルテーションチーム活動が基本です。緩和ケアチームは国内最多の4チームあり、1チームの施設の4倍以上の緩和ケアチームスタッフが診療しています。毎週行われる緩和ケアチームカンファレンスでは医師だけでなく、看護師、薬剤師、心理士、栄養士、ホスピタルプレイスタッフ、アピアランスケアスタッフなど多岐にわたる職種とディスカッションし、学びを深めることができます。

3 個別性の高い研修プログラム

研修は主に緩和医療科に固定して行うがん専門修練医(2年間)と、他診療科ローテートが可能なレジデント(2-3年間)のコースがあります。いずれのコースとも希望者は研修期間中に精神腫瘍科や外来、緩和ケア病棟を有する近隣の施設(国立がん研究センター東病院、がん研有明病院、聖路加国際病院など)や非がんを含む緩和診療(国立国際医療研究センター)の研修が可能です。



4 学会発表、論文執筆のチャンスが多い

国内外の学会での発表、査読付き英文誌への論文投稿などの機会にあふれています。経験豊富な指導医のもと、レジデントの発表が優秀演題、最優秀演題として表彰されることもしばしばあり、自身のキャリアアップに確実にプラスになります。

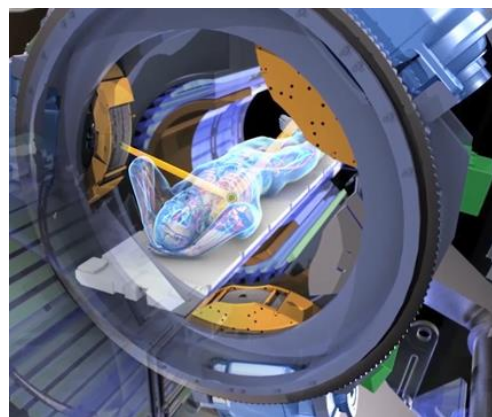
5 専門医/認定医/学位が取れる

日本緩和医療学会の専門医、認定医取得に必要な症例数や資格要件を得られることはもちろんのこと、学位取得を希望される方には当院の連携大学院制度(慶應義塾大学、慈恵医科大学、順天堂大学など)を利用した学位取得も可能です。



6 最先端のがん医療が学べる

がん医療はゲノム医療、個別化医療のキーワードのもとで日々急速に進展しています。当院は国内のがん医療のトップランナーであり、遺伝子パネル検査をはじめとする診断技術、新規薬剤の治験、新規放射線治療技術など、普段の臨床の中で日常的に触れられます。院内にはがん診療全体、治療開発、臨床研究を学ぶプログラムが整っており、緩和ケアに限らず最新のがん医療を俯瞰的に学ぶことができます。また、緩和ケア研修会や院内緩和ケアセミナーでは講師としての経験も得られます。



7 がん診療経験がなくても大丈夫

がん診療の経験が少なくてもがんセンターの患者さんを担当できるだろうか？と不安な方も大丈夫。緩和ケアチームのOn the Job Trainingと院内の勉強会を通じてがん診療に必要な知識と経験が身につきます。過去には循環器内科や精神科出身の医師も研修しています。



8 たくさんのレジデント仲間

他診療科も含めると毎年20-40人のレジデントが全国から集まります。自分にはない専門性を持つ同期と教え合いながら共に学ぶ経験はそれだけでも貴重ですし、そこで築き上げた人間関係は間違いなくその後一生の財産になります。



9 研修修了後の進路が選べる

緩和医療科研修修了後の進路をご紹介することも可能です。がん専門病院（国立がん研究センター東病院、がん研有明病院）、緩和ケア病棟（永寿総合病院、都立駒込病院）、訪問診療（わたクリニック、ふくろうクリニック）など様々な施設でOB、OGが活躍しています。



10 ワークライフバランスの充実

院内に職員向けの保育園があり、育児しながらの勤務も可能です。年休の取得はもちろんのこと、男性医師も産休や育休の制度を利用することができます。

病院は東京駅、羽田空港とアクセスしやすく国内の移動は容易。そして銀座や築地市場に隣接しており、通勤にもプライベートにも便利な抜群の立地です。



もっと詳しく知りたい方はこちら

最新情報はfacebookで

気軽にお問い合わせください！

国がん中央 緩和



国立がん研究センター中央病院
緩和医療科 科長 里見 絵理子
esatomi@ncc.go.jp

聖隷三方原病院

ホスピス科・緩和支援治療科

【病院・診療科概要】

聖隷三方原病院は934床（一般810床、精神104床、結核20床）の総合病院です。1930年（昭和5年）5月、当時不治の病として人々に恐れられ忌み嫌われていた結核と貧しさに苦しむ一人の青年を、若きクリスチャンたちが協力しあい、小さな病室を建てて彼を温かく迎え入れたことが当院のはじまりです。1981年にわが国で最初のホスピスとして聖隷ホスピスが開設され、ホスピス科としての活動を開始しました。

2002年には緩和ケアチーム活動も開始し、2003年からは緩和支援治療科として本格的に緩和ケアチーム活動を推進してきました。ホスピス病棟は27床で年間約350名の入院、緩和ケアチームは年間約270名の新規依頼があり、両科は協力しあいながら、病院設立の精神を受け継ぐ質の高い緩和ケアを提供するように努めています。

聖隷三方原病院 内科専門研修プログラム 緩和医療専門医コース

- ・ 内科専門医と緩和医療専門医の取得を目指すプログラムです
- ・ 最初の3年間は内科プログラム研修を行い、内科専門医の取得を目指します
- ・ 4年目（開始時期は調節可能）より、2～3年間の緩和医療専門医研修を開始します
- ・ 専門医研修は、3施設がコラボレーションした「ことはなNet」を利用可能です
- ・ 専門医研修のみも可能です

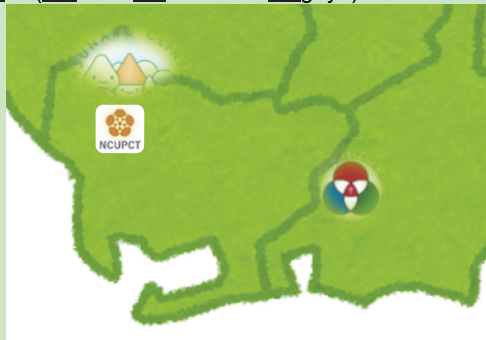
緩和医療専門医コース ローテーション例

研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	総合1			呼吸器内科			総合2			消化器内科		
2年次	連携施設						特別連携施設					
3年次	総合3			循環器科			選択（救急科）			選択（消化器内科）		
4年次	聖隷三方原病院 ホスピス科での研修											
5年次～	聖隷三方原病院及び協力施設での研修											

ことはなNet

緩和ケア医・精神腫瘍医
キャリアサポートネットワーク 東海

tokai(KOmaKI-HAMamatsu-NAgoya)-Network for enhancing the career development of palliative physician, psycho-oncologist and medical oncologist



聖隷三方原病院
・ホスピス
・緩和ケアチーム



名古屋市立大学病院
・サイコオンコロジー
・緩和ケアチーム



在宅緩和ケアあすなろ医院
・在宅緩和ケア
・緩和ケア外来



3 施設
コラボレーション



緩和医療(病棟/在宅/チーム)、サイコオンコロジーを集中的に学びませんか？
東海圏(浜松-名古屋-小牧)で、緩和ケア医・精神腫瘍医のキャリアをサポートします

- ・ 2-3年のモデルコースあり。プログラムの組み方は相談応需。
- ・ 女性医師を始め、さまざまなライフステージを支援します。
- ・ 臨床研究をはじめたい方を支援します(学位も取得できます)。
- ・ 内科専門医(サブスペ領域含む)取得に関しては、名古屋市立大学病院もしくは聖隷三方原病院を基盤とするプログラムで、卒後3年目からのキャリアパスも支援します。

【特色】

1 ホスピス病棟で主治医としてじっくりと全人的な関わり、症状緩和治療、ホスピスカアを学ぶことができます

最初は指導医とペアを組んで、ある程度慣れたら単独で主治医として診療し、医師同士のカンファレンスや回診、病棟多職種スタッフとのカンファレンスでpeer reviewしていきます。比較的じっくりと患者さんご家族と関わりを持てます。

2 緩和ケアチームのコンサルテーション活動を通して幅広い病期の緩和ケアやチーム医療を学ぶことができます

専門の職種が有機的にチームを組んでいます。抗がん治療中、外来通院中など多様な病期やセッティングでのコンサルテーション業務を主治医や病棟スタッフと協働して行います。

3 臨床研究に積極的に取り組んでいます

終末期の難治性症状（せん妄、呼吸困難）の緩和や鎮静薬投与方法の標準化等に関する観察研究や、ランダム化比較試験、遺族調査など幅広いテーマとデザインの臨床研究に取り組んでいます。また、米国で緩和ケアの研修を行った医師を中心に国際共同研究でも中心的な役割を果たしています。これらの主研究・付帯研究を担当することで研究立案から遂行、解析、学会発表や論文文化のノウハウと実践知を習得できます。

4 知識のアップデートが可能で、臨床試験・論文執筆の指導を受けられます

抄読会を週1回行い、各医師が順に興味のある論文をシェアしています。また、他の施設とウェブ経由で多施設抄読会を週1回行っており、最新論文を網羅的にレビューしています。国際誌や緩和医療学会誌の査読や編集委員をしている医師が複数いるので、臨床試験や論文執筆、論文投稿の相談が可能です。

5 多くの研修医師を受け入れています

研修を希望される医師・研修医を積極的に受け入れ、相互に学ぶことを目指しています。2008年度から3か月以上の研修医師は20名以上を受け入れ、短期間の研修も受け入れています。

6 診療ガイドラインや教科書執筆などに携わっています

各種診療ガイドライン（がん疼痛、呼吸器症状、消化器症状、鎮静、ACPなど）に委員として関わり、教科書（『緩和医療学』『緩和ケアレジデントマニュアル』など）の編集・執筆も行っております。日々の臨床疑問や困難事例に対して専門的な指導や助言を受けることが可能です。

7 スタッフのワークライフバランスを大切にしている職場です

ホスピス科では平日夜間・休日を当番制としており、当番でなければ完全にフリーとなります。子育て中の場合や研究時間も状況に合わせてご相談が可能です。



ホスピス病棟での多職種カンファレンス



緩和ケアチームの定期ミーティング



【指導責任者】

ホスピス所長：今井堅吾
緩和支援治療科部長：森雅紀
【緩和医療専門医・認定医】
専門医：3名
認定医：2名
【所属医師数】
8名
(ホスピス科5、緩和支援治療科3)

緩和ケアの研修をどうしても迷っていたら、一度聖隷三方原病院へ見学に来て下さい！
研修期間は日単位から年単位まで、希望に合わせてご相談しています。

〒433-8558 浜松市北区三方原町3453聖隷三方原病院

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/>

電話053-436-1251 FAX053-438-0652

ホスピス科 今井堅吾 e-mail:k.imai@sis.seirei.or.jp

緩和支援治療科 森雅紀 e-mail:masanori.mori@sis.seirei.or.jp

静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科



医師・レジデント募集中！！



緩和ケア別棟



4西病棟病室



緩和ケアチーム回診

・身分:

レジデント（半年～3年）、チーフレジデント（2年）

経験によっては常勤医（医師、副医長）としての入職も可能

・待遇:

静岡県職員の規定に準ずる

・募集要項（当院HP）:

https://www.scchr.jp/careers/full_time/palliative_medicine.html

・連絡先:

佐藤哲観(科部長) Email: te.sato@scchr.jp

企画人材班 scc-jinzai@scchr.jp

● 豊富な症例数

- ・50床の緩和ケア病棟を有します(緩和ケア別棟25床、4西病棟25床)。
- ・緩和ケア病棟:新規入院576人(2022年度)
- ・緩和ケアチーム:新規依頼件数647件(2022年度)
- ・他科の依頼に応じて外来での症状緩和、心理サポートも行っています。
- ・研修内容はご希望に応じて調整します。

● 症状緩和のための多彩なリソース

- ・症状緩和のための様々な薬剤が使用可能です。
- ・ペインクリニック専門医が在籍し、神経ブロックも積極的に行っています。
(2016年4月～2023年3月の期間に290例実施しています。)
- ・放射線治療や緩和IVRなどの非薬物療法も迅速に行っています。

● 充実したスタッフ陣

- ・現在7名の常勤スタッフが在籍しています。
(内科出身:2名 外科出身:4名、麻酔科出身:1名)
- ・初代部長も参与として勤務しており、漢方薬の指導が受けられます。
- ・3名の臨床心理士が在籍しており、心理サポートも充実しています。
- ・精神腫瘍科医師の手厚いサポートも受けられます。

● 働きやすい労働環境とゆとりある暮らし

- ・夜間の看取りは当直医対応、休日は緩和医療科当番医制になります。
- ・待遇面、福利厚生面も充実しています。
- ・新幹線駅、高速道路のICに近く、遠方への移動がしやすい環境です。
- ・豊かな自然、近隣にサファリパークなどあり、子育て環境も充実しています。

緩和医療科スタッフ



緩和ケアチーム



緩和医療・緩和ケアを志す医師の方々のご応募をお待ちしております!!



名古屋市立大学病院 緩和ケアセンター



臨床

緩和ケア医、精神腫瘍医、看護師の他、経験豊富な公認心理師、薬剤師、療法士を中心として、その専門性を活かしたチーム医療を、緩和ケアチーム、緩和ケア外来で実践しています。特に、精神症状緩和や心理的な支援の充実を図り、患者さんやご家族さんの心のケアにも注力していることが特徴です。

研究

症状緩和や終末期療養の質の改善に資する研究から、がん患者の抑うつ・不安に対するスマートフォン精神療法の最適化研究、医療事故防止・せん妄予兆検出システムの開発といった先駆的な取り組みまで幅広く取り組んでおります。

学会関連の各種ガイドライン策定にも携わっております。

～ 研究業績(2023年)の一部をご紹介します ～

- ・乳がん患者の再発恐怖をスマフォアプリで軽減することに初めて成功した(Akechi T. J Clin Oncol 2023)
- ・がん患者の終末期療養に関する話し合い自体は、療養の質には関係しないが、主治医の共感性が療養の質向上に関連することを明らかにした(Hasegawa T. Oncologist 2023)
- ・緩和ケアがAYA終末期療養の質向上と関連することを明らかにした(Hasegawa T. J Adolesc Young Adult Oncol 2023)

教育

下記、ことはなNetに参加して、緩和医療専門医・登録精神腫瘍医の育成に取り組んでおります。医学部6年生に対する卒前教育、研修医・専門研修医に対する卒後教育、大学院（精神腫瘍学）教育にも携わっております。

ことはなNet

緩和医療専門医取得・専門的緩和ケアの研修

緩和ケア医・精神腫瘍医キャリアサポートネットワーク 東海

3 施設コラボレーション



聖隷三方原病院
・ホスピス
・緩和ケアチーム



名古屋市立大学病院
・サイコオンコロジー
・緩和ケアチーム



在宅緩和ケアあすなる医院
・在宅緩和ケア
・緩和ケア外来



くわしくは



緩和医療(病棟/在宅/チーム)、サイコオンコロジーを集中的に学びませんか？
東海圏(浜松-名古屋-小牧)で、緩和ケア医・精神腫瘍医のキャリアをサポートします！

- ・2-3年のモデルコースあり。プログラムの組み方は相談応需。
- ・女性医師を始め、さまざまなライフステージを支援します。
- ・臨床研究をはじめたい方を支援します(学位も取得できます)。
- ・内科専門医(サブスペ領域含む)取得に関しては、名古屋市立大学病院もしくは聖隷三方原病院を基盤とするプログラムで、卒後3年目からのキャリアパスも支援します。

研修プログラム（モデルコース）

本プログラムは日本緩和医療学会の研修カリキュラムに準拠しており、緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅緩和ケアの全ての診療が経験できます。緩和ケア医が経験を積むことが難しく、一方で学習ニーズが極めて高い、サイコオンコロジーや精神医学、緩和支援領域の臨床研究についても深く学ぶ機会を提供できることが本プログラムの特色です(研修期間中から社会人大学院生として、博士号の取得を目指すことも可能です)。

☆研修モデルコースの例(2年間コース)

専門研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	ホスピス病棟・緩和ケアチーム研修 (聖隷三方原病院 ホスピス科・緩和支援診療科) ホスピス病棟での研修を中心に研鑽を積みます											
2年目	在宅緩和ケア研修 (在宅緩和ケアあすなる医院) 緩和医療専門医と協働して在宅緩和ケアの研鑽を積みます						精神腫瘍・緩和ケアチーム研修 (名市大病院 緩和ケアセンター) 緩和ケアチーム診療に加えて、精神腫瘍医・公認心理師などと協働して精神腫瘍学の研鑽を積みます					



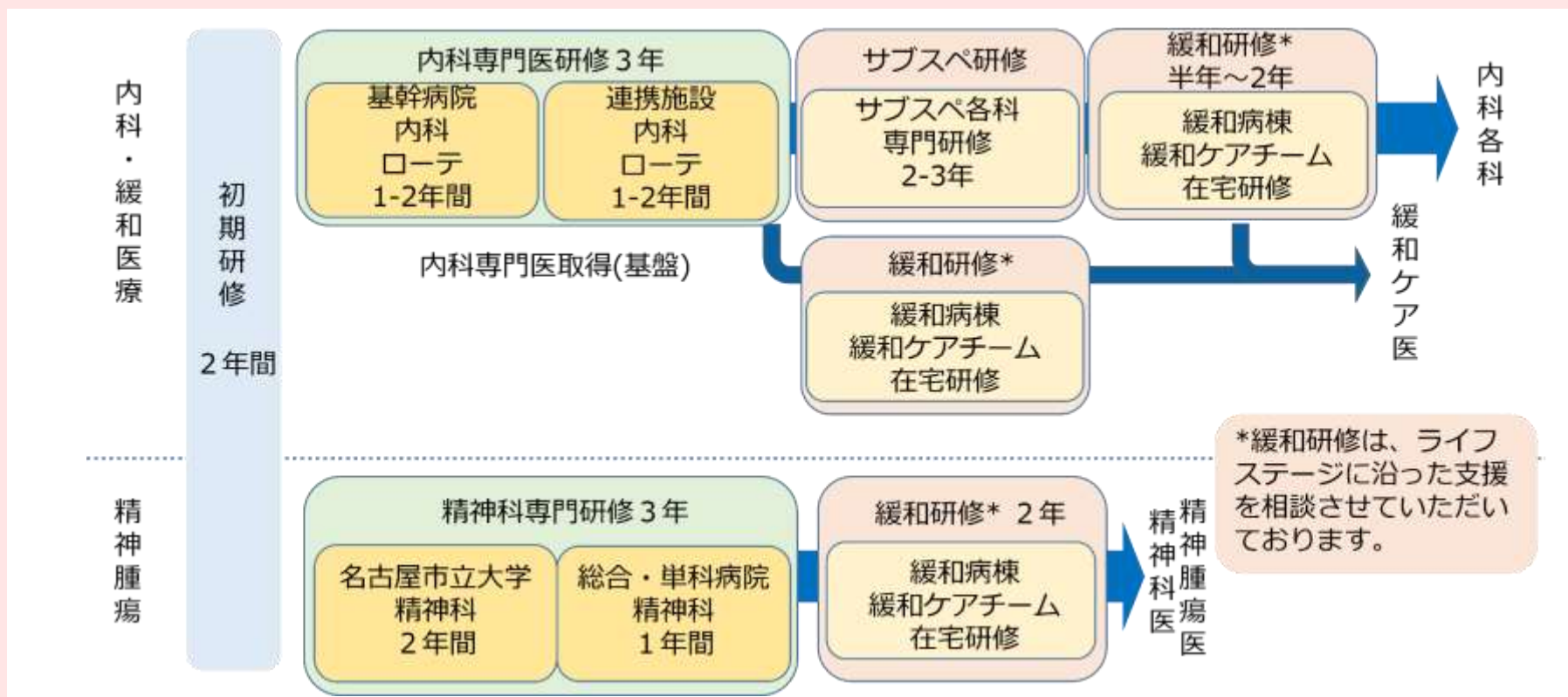
☆ **緩和ケアチーム**
それぞれの専門性を尊重し、活発なコミュニケーションを心がけています

開始時期、ローテーション順、研修期間や施設選択等は相談のうえ決定

内科専門医＋緩和医療専門医の取得を考えられている方へ 精神科専門医＋登録精神腫瘍医の取得を考えられている方へ

☆内科医としての医学的判断や技術、特に疾患の軌跡の理解、エビデンスに基づいた診療の実践、がん診療の基本的な知識、非がん疾患における複雑な病態の理解などは身に付けておくことも有用です。名古屋市立大学内科専門研修プログラムと連携して、内科専門医の取得やサブスペシャリティ領域の研鑽を積む機会も提供できます。

☆精神腫瘍医としてキャリアを積むことをお考えの方には、基盤領域としての精神科専門研修をお奨めしております。こちらもお気軽にご相談ください。



名古屋市立大学病院 緩和ケアセンターは、緩和医療・精神腫瘍学の専門研修を希望する方を支援します

連絡先：ncupsychiatry@gmail.com

住み慣れた場所で穏やかに 幸せと生きがいを届けたい

日本緩和医療学会 認定研修施設

医療法人平和の森 ピースホームケアクリニック

滋賀県 大津市

「すべての人に 緩和ケアを」

私たちは 緩和ケアが健康格差だけでなく
さまざまな社会格差を解消し
すべての人が平和で持続可能な社会を
築けるよう努めます

経験豊富な指導医が充実した学びを支援します



理事長・院長 平本秀二

京都三菱病院
総合内科専門医
緩和医療専門医
がん薬物療法専門医

腫瘍内科

経営学修士

出身

専門医

専門領域

つよみ

飯塚病院

総合内科専門医
緩和医療専門医

総合診療

米国公衆衛生学修士



医師 大屋清文

随時受付

クリニック見学歓迎



見学お申込みフォーム

ご見学や常勤・非常勤医師採用など、お気軽にご相談、お問い合わせください。



医療法人 平和の森 PEACE FOREST



077-548-7663
8:30~17:00(土・日・祝日を除く)



<https://peace-clinic.jp/>

ピースホームケアクリニック



アナタが ピースで学ぶべき理由！

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

1 豊富な
指導経験



豊富な指導実績があり
学習ニーズに合わせて
丁寧に指導！

2 仕事も
家庭も



子育て世代も大活躍！
仕事と家庭を両立する
柔軟な勤務体制！

3 仕事も
大学院も



進学や資格取得を積極
的に支援！大学院卒の
スタッフも多数在籍！

4 1日から
短期でも



見学や研修は半日から
でも歓迎！

5 臨床研究
に強い



臨床研究も積極的に実
施！論文執筆も丁寧に
指導！

6 いつでも
京都へ

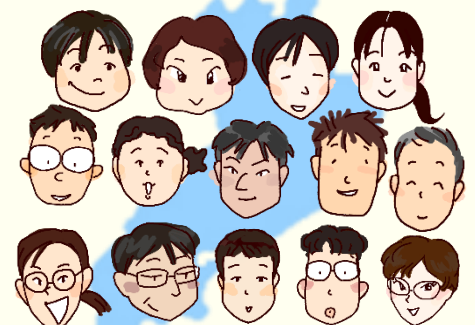


京都へ電車で15分！
生活環境も超便利！

さまざまな医療機器を備え

がんや慢性疾患患者さんの支持療法と緩和ケア

意思決定支援をおこなっています

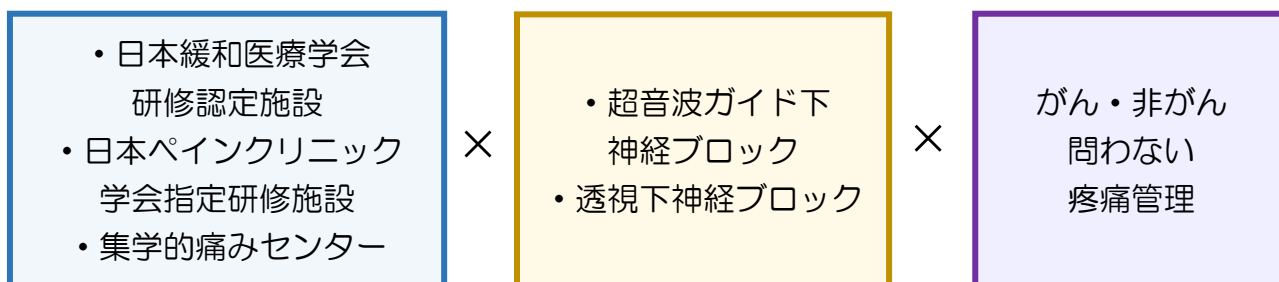


スタッフ一同
おまちしています！

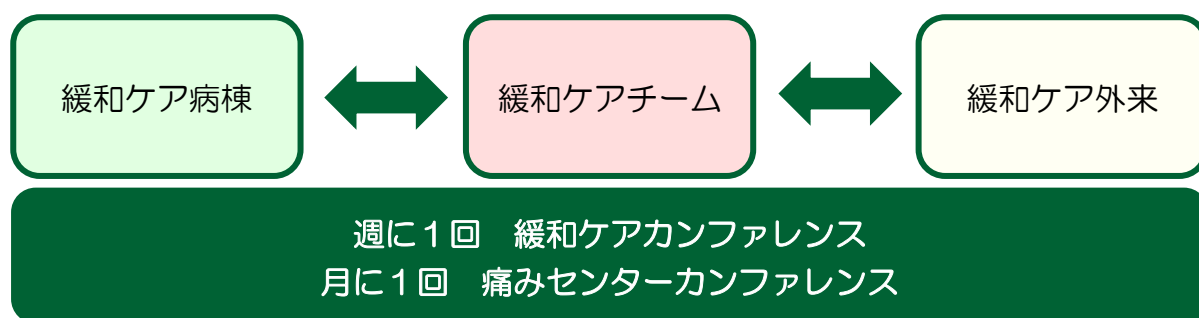
第11回 医学生・若手医師のための緩和ケアセミナー on WEB
緩和医療の専門的な研修のプログラム紹介



<特色1> ペインクリニックをベースとした緩和ケア



<特色2> 緩和ケアを様々な形で学ぶ



<特色3> 大学院博士課程で臨床研究

がんプロフェッショナル養成プラン

- 現在行っている研究
- ・肺・縦隔悪性腫瘍の遷延性術後痛／外傷後心的成長
 - ・変形性膝関節症の人工関節置換術に対する急性痛・慢性痛

第11回 医学生・若手医師のための緩和ケアセミナー on WEB
緩和医療の専門的な研修のプログラム紹介



- 【指導責任者】 天谷文昌／永井義浩 【医員数】 14名
【緩和ケア専門医】 3名
【麻酔科専門医】 11名 【ペインクリニック専門医】 6名
【総合内科専門医】 2名（血液内科、消化器内科）
【大学院生（がんプロフェッショナル養成プラン）】 3名

★当教室と一緒に仕事をしませんか？ 一度ぜひ見学に来て下さい！

（応募時期）随時

（応募資格）基本領域のいずれかの専門医資格を有する者、または1年以内に取得予定の者

（研修期間）3ヶ月～5年（応相談）

（研修内容）緩和ケア病棟・緩和ケアチーム・緩和ケア外来・ペインクリニック外来
・神経ブロック

（施設認定）日本緩和医療学会研修認定施設・日本ペインクリニック学会指定研修施設
・大学院博士課程（がんプロフェッショナル養成プラン有）

（連絡先） 京都府立医科大学 疼痛・緩和医療学教室 教授 天谷文昌
〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路 上る梶井町 465
Tel：075-251-5177 Fax：075-251-5178
E-mail：totsukanwa.kpum@gmail.com（右QRコード）





三菱京都病院

MITSUBISHI KYOTO HOSPITAL

腫瘍内科・緩和ケア内科

病院理念

「高度であたたかい医療を提供する」



腫瘍内科・緩和ケア内科のミッション

常に最高レベルのがん治療・ケアを提供する



三菱京都病院 腫瘍内科・緩和ケア内科

がん治療と緩和ケアの統合



診断時からの緩和ケアを実践しています。スタッフ全員が腫瘍内科・緩和ケア内科として診療にあたっています。がんと診断された方の初診から化学療法、支持治療、終末期のケアまで、一連の流れの中で患者・家族と信頼関係を構築し関わっていくことができます。

チーム医療



188床と比較的中小規模病院ではありますが、他の診療科・他職種との垣根が非常に低く、がんやその他の疾患(心不全など)において協力して診療にあたることができます。

緩和ケア病棟



腫瘍内科で担当していた患者をそのまま緩和ケア病棟でも担当することも可能です。他院からの転院や在宅からの入院患者にも対応します。

緩和ケア訪問診療



現在は小規模ですが、自宅療養する患者にも緩和医療を提供することも可能です。

緩和ケアチーム



医師(精神科含む)・緩和ケア認定看護師・薬剤師・臨床心理士を中心としたメンバーで緩和ケア病棟回診のみならず、一般病棟の患者の疼痛・呼吸困難・せん妄などの相談にも対応しています。

研修プログラム

- ☞ 研修期間：2年間～(要相談)
- ☞ 研修認定施設：日本緩和医療学会、日本臨床腫瘍学会、他
- ☞ 資格：緩和医療学会専門医、臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の取得を目指します。
- ☞ 応募資格：初期臨床研修修了。経験・未経験は問いませんが、がん薬物療法専門医資格取得には基本領域の専門医資格を予め取得する必要があります。
- ☞ 勤務：週5日
- ☞ 外来では初診から終末期まで化学療法や支持治療を行います。
- ☞ 入院では終末期の症状緩和だけでなく、化学療法に伴う有害事象やOncologic emergencyなどにも対応します。

※医師の働き方に配慮しています。

- ☞ 休日当番制のため、旅行・家族サービスなど気兼ねなく楽しんで下さい。
- ☞ 看取りに関しては、夜間休日等は当直医師に依頼しています。
- ☞ 子育て中など時短勤務に関しても相談可能です。
- ☞ 当直など：一般当直（月2回程度）

メンバー



吉岡 亮（副院長）



菊地 綾子
がん薬物療法専門医



堀 哲雄(呼吸器外科副部長)
緩和医療学会専門医
がん薬物療法専門医



谷山 朋彦
内科認定医

連絡先

三菱京都病院
075-381-2111(代表)

〒610-8087
京都市西京区桂御所町 1 番地

E-mail: akirayosak@gmail.com
吉岡 亮

見学など、ぜひお待ちしております！！

アクセス

京都市街にも近く好立地です！

阪急京都線「桂駅」より徒歩15分

- ※桂駅までは
- ・京都駅から電車(京都市営地下鉄・阪急電車)で約15分
- ・大阪駅から阪急電車で約35分

自家用車の場合は
名神高速道路京都南ICから約20分
京都縦貫道沓掛ICから約10分

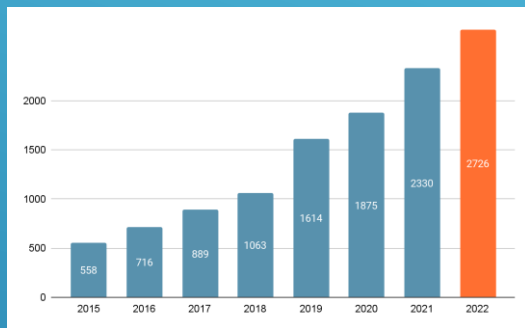
★当科のミッション

- ・病気になっても「過ごしたい場所で過ごしたい過ごし方が出来る」地域作りに貢献する。
- ・日本一の緩和ケアのトレーニングセンターとなり、緩和ケアスキルを持つ医師を多く輩出し、多くの患者に届ける。

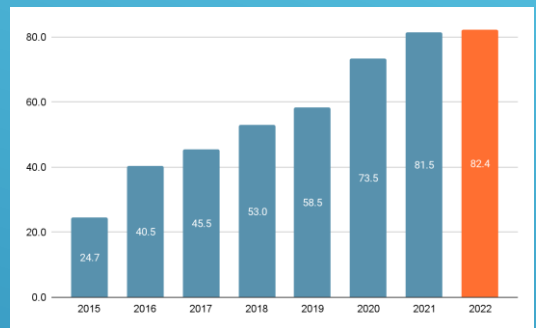
★当科について

①全国最大規模の患者数

入院患者は常に90人



緩和ケアチーム介入は全国6位

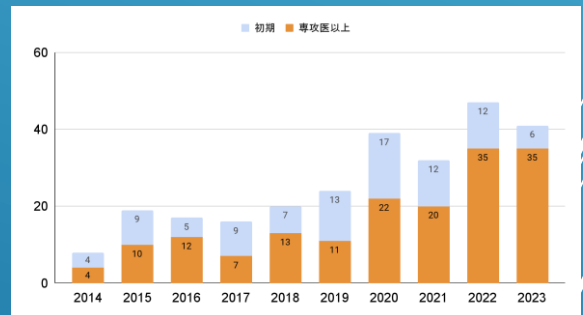


②全国最大規模の医師数

16人の所属医師



年間40人以上の研修者
(初期、専攻医)



③多数の専門医を輩出

2021年度、緩和医療専門医
合格者36名のうち7名が当科で研修

緩和医療専門医 **7名** 合格!

緩和医療認定医 **2名** 合格!



★当科での業務

- ・がん疼痛の患者に、痛みの評価と医療用麻薬の調整を行う。
- ・入院を繰り返す心不全の患者に、薬剤調整と意思決定支援を行う。
- ・誤嚥性肺炎の患者に、嚥下機能評価とリハビリテーションを行う。
- ・自宅に帰りたいがん末期患者に、迅速な在宅医療調整を行う。
- ・急性期治療の終了した患者に、適切で迅速な療養場の調整を行う。

★他施設とは一味違う当科の特徴

①入院診療

がん・非がんを問わず、病棟主治医として緩和ケアを経験する。
疾患が多彩で、専門性を決めていない人でも、基本的な緩和ケアを学べる。

②訪問診療

週1回の訪問診療を行い、在宅診療を経験する。
入院 - 在宅医療調整 - 訪問診療 - 在宅看取り、といった一連の流れを学べる。

③早期からの緩和ケアを本格的に実践

主科でがん治療を継続している患者の、体調悪化時の入院を担当する。
がん治療の経過、副作用のマネジメントなどを学ぶことができる。

④急性期×緩和ケア

集中治療科と連携して、急性期治療における緩和ケアに取り組んでいる。
患者・家族のケアだけでなく、倫理的な考え方やコミュニケーション法を学べる。

⑤移行期ケアの専門家Extensivistの養成

海外で注目されているExtensivist。日本でも徐々に取り入れられつつある役割。
いち早く取り入れて、連携医療を通じて学ぶ環境を整えている。

⑥神経ブロック

がん疼痛に対する神経ブロックに積極的に取り組んでいる。
麻酔科やペインといった専門性がなくても経験できるような環境を整えている。

問い合わせ

短期（1.5～3か月）から長期（年単位）まで、
幅広いニーズに応えられるような研修プランを用意しております。
興味のある方は、下記のリンクからお問い合わせください！！

公式HP



見学申し込み



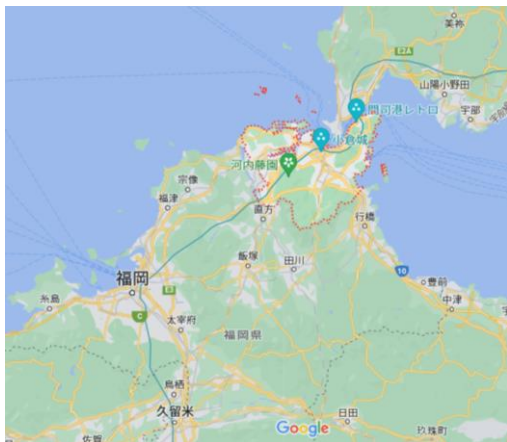
公式facebook



公式LINE



九州病院 緩和ケア科



福岡県北九州市

- 高齢化率 政令市で1位
- 子育て環境 政令市で1位 (11年連続!)
- 夜景がきれいな街 全国1位
- 当院最寄り駅(黒崎駅)から博多駅まで特急で約35分
- 北九州空港あり

地域を支える575床の基幹病院

- 地域がん診療連携拠点病院
- 地域医療支援病院
- 地域周産期母子医療センター
- 災害拠点病院
- 救急告示病院
- 基幹型臨床研修病院 など



緩和ケア科

- 緩和ケア病棟の運営
12床→来年度から14床に増床!
一般病棟での主治医も
- 拠点病院での緩和ケア機能
緩和ケアチーム
院内の緩和ケア体制の整備
地域への緩和ケア普及 など
- 初期臨床研修医への教育

メンバー

- 来年度は3名 (非常勤医1名)
- 初期研修医
2年次研修医(9名)が1カ月間必修
- 信頼できる多職種スタッフ
いつも支えられています



資格

- 緩和医療専門医・認定医を取得可
- 認定医を取得できる半年間の常勤雇用可
(半年大歓迎です！)
- 資格取得を目指さない形もちろんOK

経験できる内容 ニーズに応じて調整します！

- 緩和ケア病棟での入院診療
- 一般病棟での入院診療
- 一般病棟での非がん患者の入院診療
(誤嚥性肺炎・老衰など)
- 緩和ケアチーム ●外来
- 初期研修医への教育

ワークライフバランス

- 医師はチームで診療
 - ・有給休暇の取得を推奨
 - ・臨時の帰宅等に対応可能
- 基本的には定時で終了
- 土日はオンコール体制
オンコール者以外はコールフリー
- 当直なし相談可
- 非常勤での雇用も相談可

研修医・若手医師へ向けて

- 山口は総合診療部にも所属し、当院総合診療プログラムの責任者を務めている
→基本領域の研修中から、将来の緩和医療専門医を見据えたプランニングが可能
- ※総合診療以外を専門とする医師や、専門領域を持たない医師も大歓迎です

学生さんへ向けて

- 初期研修2年次で緩和ケア科が1か月間必修！(全国的にも珍しい)
選択期間(1年次1か月、2年次6か月)でも緩和ケア科を自由に選択可能
- 山口が当院初期臨床研修プログラム責任者を務めている
→初期研修中から、将来の緩和医療専門医を見据えたプランニングが可能

多様で将来性のあるキャリア



初期研修プログラムや総合診療プログラムも担当しているため、**初期研修医・基本領域専攻医の段階から将来の緩和医療専門医を見据えたプランニングが可能！**

※緩和医療専門医取得には、19基本領域の専門医取得が今後条件に加わる見込み。
(「日本緩和医療学会専門医制度改定概要」をご参照下さい)

※図の病院総合診療プログラムも提供可。
家庭医療プログラムは整備中。

※総合診療専門医と内科専門医のダブルボードも提供可。

図は日本プライマリ・ケア連合学会HPより改変
(<https://www.shin-kateiroyo.primary-care.or.jp/career>)

初期臨床研修



お気軽にご連絡下さい。お待ちしております！
窓口：yamaguchi-takeya@kyusyu.jcho.go.jp (山口健也)